

感染症発生動向調査委員会報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報が発令されました。
- 風しんの流行が継続しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<細菌性赤痢>

1件のflexneri(B群)の報告がありました。インドネシアでの経口感染が推定されています。

<腸管出血性大腸菌感染症>

1件(無症状病原体保有者O157 VT2)の報告がありました。職場の定期検便で明らかになりましたが、周囲の有症状者や感染者はいませんでした。

<腸チフス>

1件の報告がありました。ミャンマーでの感染が推定されています。最近の国内報告例のほとんどはアジア諸国等の海外からの輸入事例で、海外旅行が日常化したことにより増加傾向にあります。

<デング熱>

1件の報告がありました。渡航先(カンボジア)での、蚊からの感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外(アジア諸国等)での感染です。

<レジオネラ症>

1件の肺炎型の報告がありました。感染原因は現在調査中です。

<レプトスピラ症>

1件の報告がありました。国内での水系感染が推定されていますが、詳細な感染経路は現在調査中です。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの保菌動物(ネズミ等)の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接触れる可能性のある労働などでの感染が報告されています。

<アメーバ赤痢>

腸管アメーバ症3件の報告がありました。うち2件は国内での感染が推定され、そのうち1件は性的接触による感染、もう1件は感染経路不明でした。残るもう1件は感染経路感染地域等不明でした。

<急性脳炎>

40歳代の報告が1件ありました。病原体、原因等不明です。

<後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)>

1件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<梅毒>

1件の早期顕症梅毒 I 期の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。

<風しん>

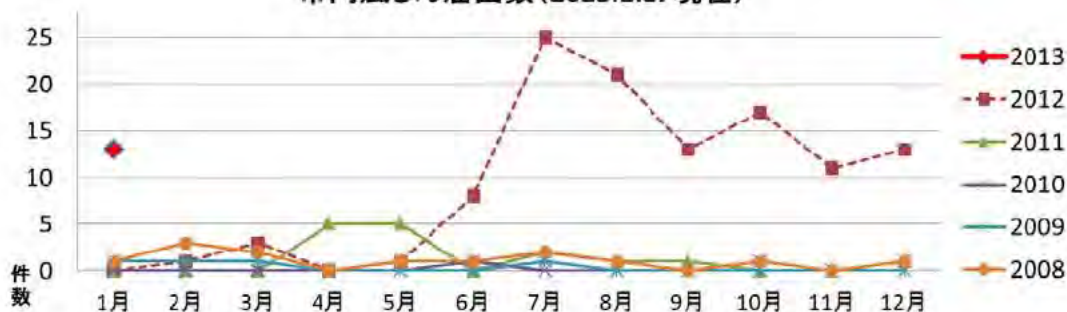
13件(男性10件、女性3件)の報告がありました。依然として男性の報告が多い状況ですが、女性(すべて50歳代)の3件はいずれも予防接種歴が確認できませんでした。現在、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などで流行が継続しており、横浜市でも報告が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています※。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の20~40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2013.1.27現在)



＜麻しん＞

30歳代男性(ワクチン接種歴1回(1歳時))の臨床診断例の報告が1件ありました。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期のPCR検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

定点把握疾患

平成24年12月24日から平成25年1月27日まで(平成24年第52週から平成25年第4週まで。ただし、性感染症については平成24年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

第52週	12月24日～12月30日
第1週	12月31日～1月6日
第2週	1月7日～1月13日
第3週	1月14日～1月20日
第4週	1月21日～1月27日

1 患者定点からの情報

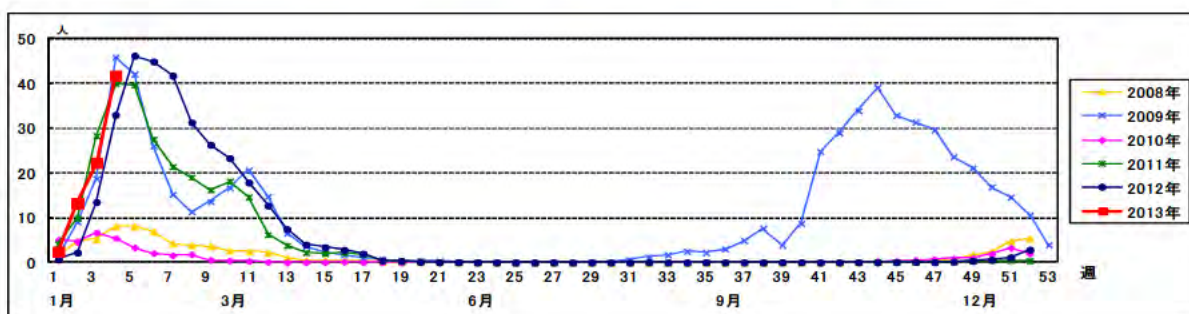
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

＜インフルエンザ＞

第4週に市全体で定点あたり41.80となり、警報が発令されました。第4週での警報発令は昨シーズンと同時期です。学級閉鎖も急激に増加しています。第4週の迅速キットの結果はA型99.0%、B型1.0%、AB型ともに陽性0.1%でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3亜型95.5%、AH1pdm09型2.3%、B型(山形系統)2.3%と、AH3亜型がほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析(HI試験)を行ったところ、AH3亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)では2管差、AH1pdm09型株(A/YOKOHAMA/154/2012)で1管差、B型(山形系統)株(B/YOKOHAMA/82/2012)で2管差でした。なお、一般的にHI価4倍(2管差)以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出されたAH3亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)、B型(山形系統)株(B/YOKOHAMA/82/2012)とも、オセルタミビル、ペラムビル、ザナミビル、ラニナミビルに対する感受性低下は認めませんでした。

◆ [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#) ◆ [インフルエンザ臨時情報](#)



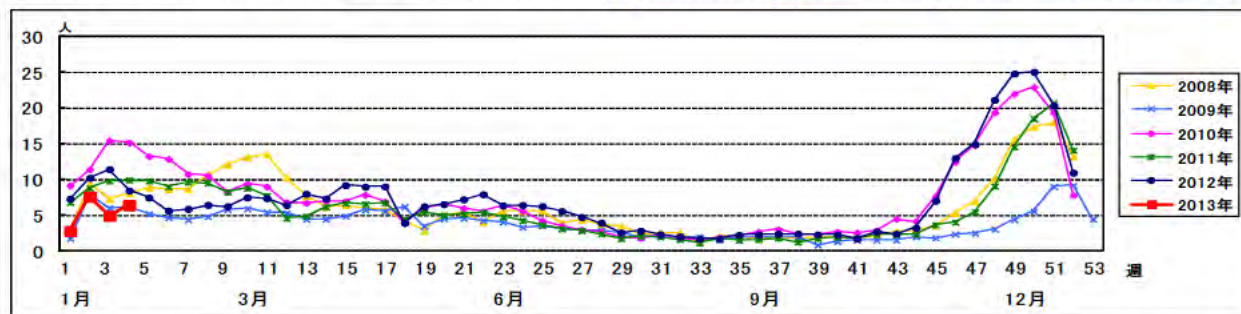
< 感染性胃腸炎 >

昨年第50週に定点あたり25.11と流行しましたが、第4週では6.48と落ち着いています。ただ、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>



< 性感染症 >

12月は、性器クラミジア感染症は男性が19件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が11件です。尖圭コンジローマは男性3件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が0件でした。

< 基幹定点週報 >

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に1.00を下回りました。横浜市でも第52週2.00、第1週0.00、第2週0.00、第3週5.00、第4週1.33と、先月報告分に比べやや減少傾向です。ただ、全国的にも以前のベースラインの0.40前後の状態より多い状況であり、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

< 基幹定点月報 >

12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症13件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点52件(鼻咽頭ぬぐい液49件、ふん便吐物3件)、内科定点16件(鼻咽頭ぬぐい液15件、吐物1件)、眼科定点2件(眼脂)、基幹定点14件(鼻咽頭ぬぐい液7件、ふん便1件、髄液6件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点はインフルエンザ27人、気道炎18人、胃腸炎3人、発疹症2人、流行性耳下腺炎、口内炎各1人、内科定点はインフルエンザ13人、気道炎2人、胃腸炎1人、眼科定点は流行性角膜炎2人、基幹定点はインフルエンザ6人、無菌性髄膜炎4人、脳炎、肝炎各1人でした。

2月7日現在、小児科定点のインフルエンザ患者9人と気道炎患者1人からインフルエンザウイルスAH3(以下Inf-AH3)型、インフルエンザ患者1人からインフルエンザウイルスAH1pdm09型、気道炎患者4人からアデノウイルス(1型、2型、4型と6型、各1人)、内科定点のインフルエンザ患者3人からInf-AH3型、基幹定点のインフルエンザ患者1人からInf-AH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点のインフルエンザ患者15人と気道炎患者1人からInf-AH3型、気道炎患者4人からRSウイルスとヒトコロナウイルス(各2人)、口内炎患者1人からコクサッキーウイルスA6型、内科定点のインフルエンザ患者9人からInf-AH3型、基幹定点のインフルエンザ患者4人からInf-AH3型、無菌性髄膜炎患者2人からアデノウイルス(型未同定)とコクサッキーウイルスA6型(各1人)の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは1件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2)、チフス菌が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から3件で、A群溶血性レンサ球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(1月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別	1月			2013年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	1	9	1	1	9	1
菌種名						
赤痢菌		1			1	
腸管出血性大腸菌			1			1
チフス菌		2			2	
不検出	1	6	0	1	6	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別	1月			2013年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	3	4	8	3	4	8
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	1			1	
	T6	1		1		
	T4	1		1		
	T B3264	1		1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		1			1	
インフルエンザ菌			1			1
肺炎球菌		2			2	
<i>Neisseria meningitidis</i>			2			2
結核菌			5			5
不検出	0	0	0	0	0	0

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】